

「天引八幡神社の大椋（仮称）」について



(写真の左側が本樹) Photo by Tomoki Sando

樹 高 29.0 m
幹 周 9.1 m
推定樹齡 ? 年
所 在 地 京都府船井郡園部町天引
天引八幡神社
指 定 単木としては、指定なし
社叢全体が風致林として町指定記念物

これまで天引八幡神社の本殿東側にカヤの大樹に寄り添ってそびえる本樹はケヤキとして扱われてきました。しかし、2002年4月に全国巨樹巨木林の会員である山東智紀、高橋弘をはじめとしたメンバー数名で行なったツアーで立ち寄った際に、樹種がケヤキではないことが判明。その時は、まだ芽吹き直後で樹種の同定には至らなかったため、5月に再調査を行い、表1の中にある葉の基部の3脈の有無、側脈の特徴、樹皮の特徴の3点から、本樹がムクノキであることを断定しました。

また、本樹の樹高、幹周を測定したところ、それぞれ 29.0 m、9.1 mでした。

ケヤキは全国各地に幹周9 m以上の巨樹がたくさん残っているため、本樹がケヤキであった場合はそんなに珍しいものとは言えませんでした。しかし、ムクノキで幹周が9 mクラスとなると全国を見渡してみても、数えるほどの巨樹しか現存しておらず（別途資料「樹種別 ムクノキ 幹周上位ランクの巨樹たち」参照）、本樹はそれらに並ぶ全国屈指のムクノキの巨樹ということになります。



Photo by Tomoki Sando

また、現存する他のムクノキの巨樹はどれも老齢のため痛みが激しく、左下の写真を見ても分かるように、現在幹周日本一のムクノキと言われる「三日月の大椋」は、すでに幹が空洞化し、樹木医の手により樹勢回復のための治療が行なわれています。

それと比較して本樹は、北側の株元に若干の痛みが見られるものの、全体としてはまだまだ樹勢が旺盛な巨樹であり、学術的にも非常に価値のある樹であると考えられます。

「天引八幡神社の大椋」の写真



全体（グラウンド側より）



（本殿側より）



（本殿側より）

南側にカヤの大木が寄り添っている



株元北側



株元南側

株元北側に痛みが見られるますが、南側には若い根が張り出しており、樹勢も旺盛です。

ケヤキとムクノキ、さらにムクノキによく間違われるエノキについて説明します。

・ **ケヤキ** (ニレ科) *Zelkova serrata*

落葉高木。葉は互生し、葉身は長さ3~7cm、幅1~2.5cmの狭卵形~卵形。先端は長く鋭くとがり、基部は浅い心形。ふちには鋭い単鋸齒がある。表面はややざらつく。側脈は8~18対で、鋸齒の先端まで達する。葉柄は長さ1~3mm。花は単性または両性。雄花は新枝の下部に束生し、雌花は新枝の上部の葉腋にふつつ1個ずつつく。樹皮は灰白色でなめらかだが、老木になると鱗片状にはがれる。果実は瘦果(そうか)。直径4mmほどの稜角のあるゆがんだ扁球形で、10月に暗褐色に熟す。

・ **ムクノキ** (ニレ科) *Aphananthe aspera*

落葉高木。葉は互生し、葉身は長さ4~10cm、幅2~6cmの長楕円形。先端はふつつ尾状に長くとり、基部は広いくさび形かまるく、左右不相称。ふちには鋭い単鋸齒がある。両面とも短い伏毛があり、著しくざらつく。基部には顕著な3脈があり、側脈は鋸齒の先端まで達する。葉柄は長さ1cm。花は単性で雌雄同株。樹皮は灰褐色でなめらかだが、老木になると縦長な鱗片状にはがれ、基部は板根状に広がる。果実は核果。直径7~12mmの球形で、10月に紫黒色から黒色に成熟する。

・ **エノキ** (ニレ科) *Celtis sinensis* var. *japonica*

落葉高木。葉は互生し、葉身は長さ4~9cm、幅2.5~6cmの広楕円形。先端は急に鋭くとがり、基部は広いくさび形で、左右不相称。成木の葉は上部3分の1ほどに小さな波状の鈍鋸齒があるものと、ほとんど全縁のものがある。若葉は両面ともさび色の短い縮毛が密生し、とくに裏面に多い。葉は厚くて両面ともざらつく。基部には顕著な3脈があり、側脈はふちの近くで上に曲がり、鋸齒の中へは入らない。葉柄は長さ約5mm、上面に溝があり、軟毛が密生する。花は単性で雌雄同株。樹皮は灰褐色でなめらかで、老木になっても鱗片状にはがれることはない。果実は核果。直径6mmほどの球形で、9月に赤褐色に成熟する。

参考 「原色樹木大図鑑」 北隆館

「山溪ハンディ図鑑 樹に咲く花 離弁花」 山と溪谷社